

平成25年7月10日  
パリ産業情報センター  
舛田 崇

## 一般調査報告書

### パリ・エアショーの状況と名古屋商工会議所ミッション参加報告

6月17日から23日までの7日間にわたり、パリ郊外のル・ブルジェ空港において、第50回パリ国際航空ショー2013（Paris International Airshow 2013：以下、エアショーと記載）が開催されました。

パリ・エアショーは、ファンボロー・エアショーと1年毎に交互に開催される航空宇宙産業の展示会であり、パリ産業情報センターにおいても、これまで数回レポートを報告していることから、エアショーの概要についてご存知の方も多いと思います。



パリ・エアショーの全景

そして、今回パリ産業情報センターは、名古屋商工会議所（以下、名商と記載）及びグレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会（以下、GNIと記載）のミッションに参加し、エアショーで開催されたシンポジウムにおいて、愛知県の航空宇宙産業をPRしました。

今回のレポートでは、パリ・エアショーの状況のほか、GNI・名商ミッションの参加状況について報告いたします。

#### <パリ・エアショーについて>

パリ・エアショーは、プライベート・ジェット専用空港であるル・ブルジェ空港がそのまま展示会場となっており、エプロンにはあらゆる種類の航空機が展示されているほか、展示会場では、様々な航空機部品からエンジン、主脚等の大物までが展示されています。また、主要なメーカーは、展示会場とは別の「シャレー」と呼ばれる展示・商談スペースを持っており、重要な商談についてはそこで行われます。

さらに、パリ・エアショーの場合、ル・ブルジェ空港に併設された航空宇宙博物館にも、航空機や宇宙ロケットが相当数展示されており、エアショーの期間においては、新旧のあらゆる種類の機材を見ることができます（博物館はエアショー期間中は休館となります）。

今年のエアショーにおいては、初めて展示される新型機はあまりありませんでしたが、期間中の21日には、現在トゥールーズで開発中であるエアバス社のA350XWBがル・ブルジェ空港上空をデモ飛行し、来場者にエンジンの静かさ等をPRしたとのことです。

今回のエアショーは、出展者は44カ国から2215社・機関となり、2年前に比べて増加しているのですが、天候が不順だったこともあり、トレードビジター数は約14万人（2011:約15万2千人）、パブリックビジターは約17万6千人（2011:約20万4千人）と減少してしまったとのことです。

## <GNI シンポジウムへの参加>

今回のエアショーにおいて、名商は栗岡完爾参与（株トヨタ自動車顧問）、細谷孝利専務理事を筆頭とした 12 社が参加したミッションを組織されました。世界の航空宇宙関連マーケットの最新動向調査のほか、出展企業との面談等を目的としたものです。また、同ミッションは、エアショーでの調査の後には、ドイツ・ハンブルクにおいて、MRO 関連ビジネス調査も実施されたところでした。

また、GNI も中部経済産業局の山本雅史局長を筆頭とした、中部航空宇宙技術センター（C-ASTEC）と連携したミッションを組織されており、今回のエアショーでは、名商ミッションをメンバー加えた形で、ル・ブルジェ空港ターミナルにあるサロンにおいて、イル・ド・フランス地域圏のヴァル＝ドワーズ県を中心としたフランス企業等に対し、航空宇宙産業の集積地である GNI 地域を PR するシンポジウムを開催しました。

最初に山本中部経済産業局長から、中部地域の産業、特に航空宇宙産業の集積と、ヴァル＝ドワーズ県との交流実績を PR されたほか、細谷理事からは、航空宇宙産業関連における名商の実績や、例年メッセナゴヤに出展されているヴァル＝ドワーズ県に対する謝辞が述べられ、今後ますますの交流を期待するとの説明がありました。

また、今回は GNI 地域の企業である旭金属工業株式会社及び東明工業株式会社から会社紹介のプレゼンテーションが実施され、フランス企業に対し、当地域が航空宇宙分野における先進地域であることが紹介されたところでした。

そして、愛知県からは、本県が航空宇宙産業の拠点であるとともに、「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定され、今後はフランス・トゥールーズに匹敵する地域にしていくことや、今年には更に地域を拡大していく意向であること、「愛知県飛行研究センター」を設置して、JAXA と連携しながら航空機の研究開発を推進を促進していくこと、日本一の産業集積を生かしながら、大型補助金を始めとした様々な企業支援策を創設し、企業誘致に積極的に取り組んでいることを PR しました。

更に、今回は名商ミッション参加企業によるショートスピーチが実施されたほか、ヴァル＝ドワーズ県を中心としたフランスの参加企業のショートスピーチも実施されました。最後は、シンポジウム参加企業のネットワークミーティングも開催され、大勢の参加者による懇談が華々しく実施されたところでした。

通常シンポジウムのような一方的な情報発信と異なり、参加企業のネットワークミーティングは相互の情報交換が可能となることから、当方のような行政機関のスピーチよりも、更に日本とフランスの企業の距離が近くなり、とても効果があったのではないかと思います。



本県航空宇宙産業のPR(上)と  
名商ミッション参加企業ショートスピーチ(下)

## <フランス企業とのビジネスマッチング>

今回の名商ミッションにおいては、エアショーに出展する企業とのビジネスマッチングも重要な目的です。パリ産業情報センターは、トゥールーズ地域の航空宇宙産業クラスター「Aerospace Valley」と調整のうえ、同地域の出展企業とのビジネスマッチングを実施しました。これまでも報告してきたとおり、フランス南西部のトゥールーズを中心とした地域は、エアバス本社のほか、フランス航空宇宙産業の拠点となっており、今回のエアショーにおいても同地域からは120社が出展しており、世界の地域別出展でも最大の出展面積を誇っています。



トゥールーズ地域出展企業とのビジネスマッチング

予め Aerospace Valley に対して名商ミッション参加企業リストを送付したうえで、エアショー出展者リストを入手して、名商ミッション参加企業で訪問希望企業があれば、その旨を各出展企業に連絡しておいたうえで、当日に訪問する準備作業を実施しました。今回は名商ミッション参加企業のうち5社からの希望があり、各企業が約5社との面談を実施しましたが、今回の面談では、サンプル作成の要望等もあったことから、ビジネスマッチングの目的は達成されたのではないかと思います。

また、名商ミッションではサフラングループのエンジンメーカーであるスネクマ社の担当者を迎えてのグループミーティング等も実施しており、世界中の航空宇宙産業関連企業が一堂に会するエアショーのメリットを活かした活動をされていたところです。

## <MRJ シャレー訪問>

また、名商ミッションは MRJ シャレーを訪問しました。シャレーでは三菱航空機(株)の江川会長自らの説明を受けることができ、今後とも地元名古屋の皆様の御支援をお願いしたいとお話がありました。

昨年と同様に、実際に客室模型を見させていただきました。昨年と異なるところはあまりないかとも思ったのですが、まず、江川会長から「客室上部の荷物収納スペースに凹みを作った」とのお話がありました。理由は客室乗務員が機材の急な揺れに対応できるよう、手で握ることができるようになっていました。他の機材ではあまり見られないようなきめ細やかな配慮にとても感動したところです。

さらに、特筆すべき点として、今回も椅子とテーブルが更なる進化を遂げていました。



写真左側の椅子ですが、座面の奥行きが昨年と比べ、通常の航空機と同じくらいの幅に



戻ったのですが、客席間隔はとても余裕のある感じでした。昨年は腰で座っている感覚だったのですが、普通の椅子のサイズ幅になりながらも、足元はとてもゆったりしていました。また、リクライニングする際、座面自体が少し前に出ることにより、後部座席にプレッシャーを掛けずに楽な姿勢になることができるのは、昨年と同様です。

なお、ビジネスクラスにおいては、今回の変更で、窓側の椅子の位置を若干中央寄りに設置してあり、窓側席の乗客が壁にくっつかないよう配慮をしているとのことでした。

また、写真右側のテーブルですが、昨年はテーブルの奥の部分が下にスライドするようになっていたのですが、今回は通常のテーブルに戻っていました。ただ、テーブルを使っても、座席の足の部分に余裕があるように設計されています。今回の変更も、乗客や航空会社に十分に配慮した、きめ細やかな対応を実施しており、MRJは、世界の航空機メーカーと十分に戦うことができるのではないかと感じました。

さて、MRJは現時点で325機（オプション含む）が受注されていますが、今回のエアショーにおいては、新規受注の発表はありませんでした。MRJは初飛行を今年第3四半期に実施予定ですが、計画どおりに実施すれば、更なる受注が集められるはずで、パリ産業情報センターも、今後、更なる情報発信を実施していきたいと考えています。

パリ産業情報センターも名商ミッションの参加後、昨年度同様に、対日投資に関心のある企業ブースを訪問し、GNIシンポジウムと同様のPRを実施しました。各社の反応は高く、そのうち数社から「愛知県のデータを送付して」というリクエストや、「愛知県における大学・研究機関に関するデータを送付して」等のリクエストをいただきました。また、実際に愛知県を訪問したい等のリクエストもいただいております。今後フォローアップを通じ、具体的な誘致につなげていきたいと考えております。

パリ産業情報センターとしては、県の重点産業である航空宇宙産業を集中的に着目して、これからもこのマーケットの動向を、迅速かつタイムリーに調査してまいります。